

『明清中国関係文書の比較研究 ―台湾所在史料を中心に―』訂正表

P.80 (1 段目)	<p>第 2・3 段落を以下のように訂正（※訂正箇所を赤字で示す）</p> <p>劉洪起は明末に河南省の総兵官を勤め、明滅亡後は南部の汝寧府で農民軍を組織して清に抵抗した人物である。清『世祖実録』二年六月二十九日条には「故明の投降した河南総兵太子太保左都督劉洪起が疏して（上奏して）回籍を請う。命じて京に赴かせ朝見し、另に行して（公文書を送って）任用する」との記事があり、本勅諭の発給を得て清に帰順を表明したものと考えられる。</p> <p>本勅諭は右下に「（順治）二年六月二十四日到銷訖（処理済である）」と朱書きされており、内閣への返納後、保存用文書として処理されたとみられる。なお『世祖実録』二年七月一九日条には、内大臣と河南巡撫の上奏として、清軍が河南省西平県に進軍して「賊首劉洪起」を伏誅（処刑）したことが記されている。李光濤氏は、その背景として、清の方針が「招撫」から「掃討」へと変更されたことを指摘する。</p>
P.87、P.100～103	当該ページ内の「御押」をすべて「押印」に訂正

(2025 年 3 月 31 日)